

【 付 録 】

1. 県内に在来個体群と外来個体群が存在し、両者の形態的識別が困難な生物

県内に在来個体群が存在する生物のうち、外来個体群による生物多様性への影響が問題になっており、両者の形態的識別が困難な生物について主なものを以下に記載した。また、県内のある場所から他の場所に移入され、生物多様性保全上深刻な悪影響が出ている種もあわせて記載した。

動物

キジ *Phasianus colchicus* Linnaeus, 1758

鳥類 キジ目 キジ科

狩猟鳥増殖のため国内全域で盛んに放鳥されてきた歴史があり、2004年には全国で10万羽が放鳥され、2008年には那須の御用邸で天皇皇后両陛下が放鳥されたという記録もある。県内で放鳥されたキジの系統が不明であれば、国内外来種の可能性がある。未確認ではあるが、大正13年に国外亜種のコウライキジ *Phasianus colchicus karpowi* が津島市で放鳥されたという情報もある。

ヤマドリ *Syrnaticus soemmerringii* (Temminck, 1830)

鳥類 キジ目 キジ科

狩猟鳥増殖のため国内全域で盛んに放鳥されてきた歴史があり、県内でも同様に放鳥されてきた。国内に5亜種、本州だけでも3亜種に分けられているが、他の多くの鳥類のように広範囲の移動はしないと思われ、同一亜種でも地域により変異があるといわれている。県内に放鳥された個体の系統が不明であれば、国内外来種の可能性がある。

クサガメ *Mauremys reevesii* (Gray, 1831)

爬虫類 カメ目 イシガメ科

愛知県のクサガメについては、情報が錯綜しており、その全てが外来種であるとは言い切れない。

第1に、クサガメが日本列島にとっての外来種であるという説が出されている。江戸時代～明治時代の本草学に関する書籍や絵画、遺跡から出土したカメ、カメを表す九州地方の方言など人文科学的な史料から、クサガメは日本列島にとって在来種ではなく、江戸時代後期に人為的に導入されたと考察された(疋田・鈴木 2010)。しかしその後、広島県の中世・15世紀や古代・弥生時代の遺跡からクサガメが出土していることが報告されている(高橋ら 2018; Takahashi et al. 2020)。クサガメの化石化した骨格が見つからないこともクサガメの在来性を疑問視する一つの要因として挙げられる。しかし、日本列島の固有種であるニホンイシガメも同様に、更新世以前(約1万年以上前)の化石化した骨格は見つからない。

分子系統学的研究では、日本列島産のクサガメは自然分布した在来種ではなく、朝鮮半島および中国大陸から人為的に導入された外来種であることが強く示唆された(Suzuki et al. 2011)。しかし、この研究では朝鮮半島と中国大陸のサンプルはそれぞれ1個体分だけであり、日本列島のクサガメが人為的に導入されたことの可能性はあると考えられても、結論付ける事はできない。その後、サンプル数を増やし詳細な分子系統的研究が行われた(Oh et al. 2017)。この研究ではSuzuki et al. (2011)と同じ解析がなされたが、朝鮮半島等と共通した遺伝子タイプが見られた一方、日本列島のクサガメでのみ出現する遺伝子タイプも見られた。この研究の結果からも、日本列島のクサガメ

の在来性あるいは人為的な移入経路の予測はできるものの結論は出せないと考えられる。

結局現在までの研究成果からは、クサガメが日本列島にとって外来種である可能性はあるが、まだそれが結論であるとは言えない。

第2に、クサガメが日本列島の在来種であったとしても、愛知県あるいは愛知県以東にとって外来種である可能性があることである。近畿地方東部から東海地方にかけてのクサガメの分布は非常に不連続であり、愛知県ではクサガメは濃尾平野には多いが、三河地方にはかつては生息していなかったようである。クサガメは産卵の時以外は水のある所からあまり離れないし、ほぼ水場でしか採食せず、水環境への依存度が高い。クサガメは、琵琶湖淀川水系以西にしか分布しないバラタナゴやズナガニゴイ、ムギツク、オヤニラミといった純淡水魚のように、朝鮮半島から渡ってきて日本列島を東進したが、紀伊山地～布引山地～鈴鹿山地～伊吹山地と連なる陸地の障壁を越えることができず、東海地方以東に自然分布を拡大できなかった可能性がある。

以上より、現時点では県内に在来個体群が存在する可能性が否定しきれないため、本書ではクサガメを付録に掲載した。

他の問題としては、ペットとして流通したクサガメが野外に放逐されることである。戦後の復興期以降、クサガメはペットとしての需要が高まり、西日本や中国大陸などで養殖されて、大量の稚ガメが流通するようになった。そしてその一部のクサガメが野外に放逐され、野外で繁殖している。在来のクサガメが生息している場所に他地域に由来するクサガメが放されると、異なったクサガメの個体群間の交雑が生じ、クサガメの遺伝的多様性が損なわれる。また同属別種であるニホンイシガメの生息地にクサガメが放逐されると、交配して繁殖能力を持つ種間雑種個体が生じ、遺伝子汚染を引き起こす。

ニホンスッポン *Pelodiscus sinensis* (Wiegmann, 1835)

爬虫類 カメ目 スッポン科

ニホンスッポンは分類や生物地理、生態があまり分かっておらず、愛知県版レッドリスト(2020)においても、環境省版レッドリスト(2020)においても情報不足種(DD)とされている。

ニホンスッポンの化石は約400万年前の地層(大分県安心院の鮮新世津房川層;平山,2001)から産出しているし、縄文時代から近世にかけての各地の遺跡から遺体が出土しているので、在来のニホンスッポンが日本列島に生息していることは確かであろう。

分子系統学的な研究では、日本列島に生息するスッポンの遺伝子解析の結果、2系統に分かれた(Suzuki and Hikida 2014)。その一つは南方の系統で、中国大陸から人為的に導入された系統とみなされた。もう一つは北方の系統で、日本列島原産の系統である可能性が高く、かつて記録されていた *P. japonicas* (Temminik and Dchlegel, 1835) に該当するものであると考えられた。

形態学的な研究はまだ十分ではないが、日本列島原産と思われるニホンスッポンは体が大きく甲が円いのに対し、中国大陸のものは体が小さく甲が細長い傾向がある。県内では前者の方が多く観察されるが、時に後者のようなものが採集されることもある。実際には系統間の交雑が生じていて、識別は困難なこともある。

現時点では県内に外来個体群が存在する可能性があるため、本書ではニホンスッポンを付録に掲載した。

ミナミメダカ *Oryzias latipes* (Temminck & Schlegel, 1846)

魚類 ダツ目 メダカ科 (国：絶滅危惧Ⅱ類、愛知県：絶滅危惧Ⅱ類)

メダカは1種として遺伝的に北日本集団と南日本集団に分けられてきたが、前者はキタノメダカの和名が、後者は混乱を避けるためにミナミメダカの和名が与えられ、結果として従来の「メダカ」は破棄された。県内では平野部から丘陵地にかけて生息するが、生物多様性の誤った認識と善意の放流により他地域産ミナミメダカやヒメダカなどの観賞魚の放流・遺棄による遺伝的攪乱が起きている。ペットショップ等で販売されているメダカ類の野外への放流防止と啓発が重要である。

ヘイケボタル *Luciola lateralis* Motschulsky, 1860

ゲンジボタル *Luciola cruciata cruciata* Motschulsky, 1854

昆虫類 コウチュウ目 ホタル科

両種とも名所作りや自然との交流を目的に、餌のカワニナと共に他産地由来の幼虫を放流していることが全国的にも問題となっている。県内での他産地由来個体の具体的な放虫状況は把握できていないが、県外には積極的にカワニナとホタルを養殖し営業販売している業者も存在し、在来個体との交雑がたいへん懸念されている。このような他地域からの導入は遺伝子攪乱に繋がるため、安易な観光資源としての放流・放虫は直ちに中止すべきである。

植物

マツバラン *Psilotum nudum* (L.) P.Beauv.

大葉シダ類 マツバラン科 (国：準絶滅危惧、愛知県：絶滅危惧Ⅱ類)

近年、市街地での生育がしばしば認められるようになった。市街地の物は多くは細かく枝を分け、上向きに直立する。このような型は、江戸時代から続く園芸栽培種の特徴を引き継ぐと考えられるが、自生個体群と確実に区別することは困難である。市街地にマツバランの生育に適した環境が出来たために、このような現象が起きていると考える。

シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim.

被子植物 単子葉類 ホシクサ科 (国：絶滅危惧Ⅱ類、愛知県：絶滅危惧Ⅱ類)

湧水湿地に生育する東海丘陵要素の代表的1年草。しばしば鑑賞や保護の対象になる。そのために、本来の自生地でなかったところや、元々の個体群が衰退し始めたところに別の場所から採取した種子を播種する人がいる。実際に遺伝子を調べると、15 豊橋市葦毛湿原の集団と、16 豊橋市天伯湿地の集団、24 豊田市矢並湿地の集団、25 豊田市伊保町の集団、42a 阿久比町の集団の間には明白な遺伝的差異があるのに対し、距離的に同程度以上位置の離れた静岡県浜松市浜北区宮口の集団と16 豊橋市天伯湿地の集団、37b 尾張旭市森林公園の集団、38b 日進市岩藤新田の集団、50 守山区上志段味の集団、51 天白区島田緑地の集団の間に遺伝的な差異がほとんど無い (Masuda et al. 2017)。後者の集団が生育する湿地は、自称自然愛好家やボランティア集団による活動が早くから行われてきた場所で、おそらく、自生個体群の衰退を気づいて播種が行われたと推察される。

問題は、播種により、それぞれ個性ある遺伝集団の遺伝子が汚染されてしまったことにある。また、本来生育しなかった場所に播種された場合、本来の自生か移入かは記録が残っていない限り遺伝子分析をしてもわからない。このような、善意による生物多様性の破壊が、今後おこらないようにしっかりと啓発をしていく必要がある。

オギススキ *Miscanthus × ogiformis* Honda

被子植物 単子葉類 イネ科

近年、国産の草種を使つての法面緑化などを進める、一見環境配慮型の事業者が現れている。その事業者の展示するススキがオギススキであつた。県内では、オギが生育するとは思えない山間部のゴルフ場周辺などに、このオギススキがたくさん見られるところもある。山間部なら周囲の状況からおよその判断はつくけれど、低地で播種されたら在来の個体群との区別は困難である。

ヤマハギ *Lespedeza bicolor* Turcz.

被子植物 真性双子葉類 マメ科

在来種利用の法面緑化で、中国由来と思われる個体群が大量に持ち込まれた。外見的にはほとんど区別できないが、開花期が在来個体群と少し早めにずれるなど、外来個体群と考えるものがかかり生育している。ヤマハギは花期が長く、外来個体群の開花期と在来個体群の開花期が重なるため、遺伝子汚染を起こす。

スダジイ *Castanopsis sieboldii* (Makino) Hatus. ex T.Yamaz. et Mashiba

被子植物 真性双子葉類 ブナ科

表浜沿岸には明らかに在来個体群と思われるスダジイが分布している。一方で、救荒植物であつたため、神社やお寺などにしばしば植栽されている。ツブラジイの生育圏内にスダジイが植栽されると容易に雑種を形成する。雑種の種子も稔性があるので、戻し交配も引き起こされる。渥美半島の個体群の中には、在来系統か外来系統か迷うものがある。

ホルトノキ *Elaeocarpus zollingeri* K.Koch

被子植物 真性双子葉類 ホルトノキ科 (愛知県：絶滅危惧Ⅱ類)

渥美半島南部には明らかな在来個体群がある。公園や校庭などにしばしば植栽されており、種子を鳥が運ぶので、内陸部の思わぬところでも野生化した個体を見ることがある。遺伝子汚染の恐れがある。

トモエソウ *Hypericum ascyron* L.

被子植物 真性双子葉類 オトギリソウ科

湧水湿地や中間湿原などには在来個体群がある。一方で、法面緑化材として、中国由来と思われる個体群が、山間地の道路沿いに生育する。在来系統と生育環境があまりに異なるので、現地で見れば外来個体群として識別できることが多いが、標本だけでは判断は困難である。在来個体群の近くに吹き付けられれば遺伝子汚染の恐れがある。

シロバナナガバノイシモチソウ *Drosera makinoi* Masam.

被子植物 真性双子葉類 モウセンゴケ科 (国：絶滅危惧Ⅱ類、愛知県：絶滅危惧ⅠA類)

知多半島の壱町田湿地や渥美半島に点在する小湿地に自然分布がある。壱町田湿地では宅地開発により水源が失われたり、渥美半島の多くの湿地は規模が小さいことから遷移によって湿地そのものが消えてしまつたりと、減少傾向が著しい(愛知県 2020)。そのためか、自称自然愛好家により

播種が行われているようで、16 豊橋市南部の天伯湿地では、ナガバノイシモチソウとシロバナナガバノイシモチソウが混生するという、自然状態では考えにくい状況も観察されている。埋土種子集団を作る植物なので、播種をするより条件を整えて土地を攪乱してやる方が良いと思われる。

ナガバノイシモチソウ *Drosera toyoakensis* M.Watanabe et Seriz.

被子植物 真性双子葉類 モウセンゴケ科 (国：絶滅危惧Ⅱ類、愛知県：絶滅危惧ⅠA類)

名古屋市の滝ノ水湿地は宅地造成により、豊明市にあった大規模な自生地は養豚場の建設により消失した。そのような状況を受けて、豊明市や豊橋市で自生地が手厚く保護されている。過剰な保護活動も行われ、組織培養した個体の植え戻しなども豊明市では行われたが、現在は埋土種子からの個体群の回復が図られている(愛知県 2020)。シロバナナガバノイシモチソウ同様、一部の人の手による播種が行われており、渥美半島の小湿地などに播種されたと思われる個体群が観察される。

クリンソウ *Primula japonica* A.Gray

被子植物 真性双子葉類 サクラソウ科 (愛知県：準絶滅危惧)

山間部の湿地には在来個体群がある。在来個体群か、植栽されたものが逸出したのか判断に迷う個体群も散見する。遺伝子汚染の恐れがある。

コムラサキ *Callicarpa dichotoma* (Lour.) K.Koch

被子植物 真性双子葉類 シソ科

湧水湿地やため池の周りの湿地には在来個体群がある。白花品種の在来個体群は見えないが、生育の可能性はある。庭園によく植栽されるので、種子を鳥が運び逸出する。

2. 「外来種」という用語について

本書で「外来種」とした生物は、一般に「外来」という語から想定されるものとは範囲が少しずれている。また、「帰化種」、「移入種」などと呼ばれることも多く、用語が混乱している。これらの語は、本来の意味から言えばそれぞれ定義が異なり、それに応じてそのように呼ばれる生物の範囲も多少異なっている。この問題について、少し整理しておく。

「外来種」は、もともとは「外から来た」という由来に着目した呼称である。「外」は「内」に対する語であるから、使う立場によって範囲が異なり、国が使えば国外、愛知県が使えば県外、名古屋市が使えば名古屋市域外、ある池の保護活動をしている人が使えばその池の外という意味になる。例えば愛知県内の、しかし本来は生育していなかった湿地に播種され、そこで繁殖している県内他湿地由来のナガバノイシモチソウやシラタマホシクサは、その湿地に着目すれば「外来」であるが、愛知県全体、あるいは日本全体としては「外来」にはならない。本来ならば、移動に人為が関与しているかどうかは問わない。「外来」に対応する英語は *alien* だが、向こうの力で勝手に地球にきた宇宙人も *alien* である。来た場所でのどのような状態になっているかも問わない。飼育・栽培されている生物も、原産地がその地域外なら外来種である。例えばイネは本書では扱わなかった植物だが、原産地は国外だから、常識的な意味では明らかに外来である。ただし国外由来でも、入ってからかなりの時間が経ちすでに日本の自然に同化していると見なされるものは、一般的には「外来」とは言わない。

一方「移入種」は、本来の意味では「移入」、すなわち他動詞とすれば「移し入れる」、自動詞とすれば「移り入る」という過程に着目した呼称である。他動詞の意味にとれば、人為的に、意図的に移動させられた生物を指すことになる。人為に伴うものであっても、非意図的に、勝手に入ってきてしまったものは範囲外になる。どこから移動させられたかは問わない。もともといた(あった)場所が国内でも国外でも、近くでも遠くでもかまわない。同種個体群がその場所にすでに存在しているかどうかは問わない。わざわざ移し入れるならば何か目的があるはずだが、その目的が何であるかも問わない。環境省が行っている中国産トキの放鳥事業も、移入に含まれる。本来なら来た場所でどのような状態になっているかも問わないが、飼育・栽培状態で管理されているものは移し入れられたに決まっているから、現実問題としては管理外の状態で存在しているものが対象になる。自動詞の意味にとれば、自分で移動して入ってきた生物を指すことになる。移動に人為が関与しているかどうかは問わない。他動詞の場合と同様、どこから移動したかは問わない。自力で入ってきたのだから管理外の状態で存在しているはずだが、定着・繁殖しているか一時的に存在しているだけかも問わない。

「帰化種」は「帰化した」という由来と現状に着目した呼称で、「移入種」や「外来種」に比べると意味が狭く、「外国から来て、日本に定着した生物」という意味である。ただし「外国から来た」と言っても、自力で入ってきた生物は自然現象の範囲内であるから、日本の動植物相の、一時的であるとしても本来の構成員の一部と見なされ、帰化種には含まれない。「日本」という地域の動植物相に、意図的であれ非意図的であれ何らかの人為によって新たに加わった生物と定義することもできる。一時的に繁殖しているが十分定着した状態になっていない生物は、「一時帰化」と呼ばれる。飼育・栽培状態のものは、帰化種には含まれない。一時的に管理外の状態になっているが定着していない生物も、帰化種には含まれない。また、「日本」という範囲は明らかに生物とは関係がない人為的なくくりであるから、国内でも自然に分布が拡大する機会があるとは考えられない程度離れた他地域から入ってきたものは、「国内帰化」と呼ばれることがある。しかし、ごく近接した地域から入ってきたものは、人為に伴うものであっても、通常「帰化」とは見なされない。国外由来だが入ってからかなりの時間が経ちすでに日本の自然に同化していると思なされるものも、時に「史前帰化」と呼ばれることはあるが、一般的には帰化種には含めない。

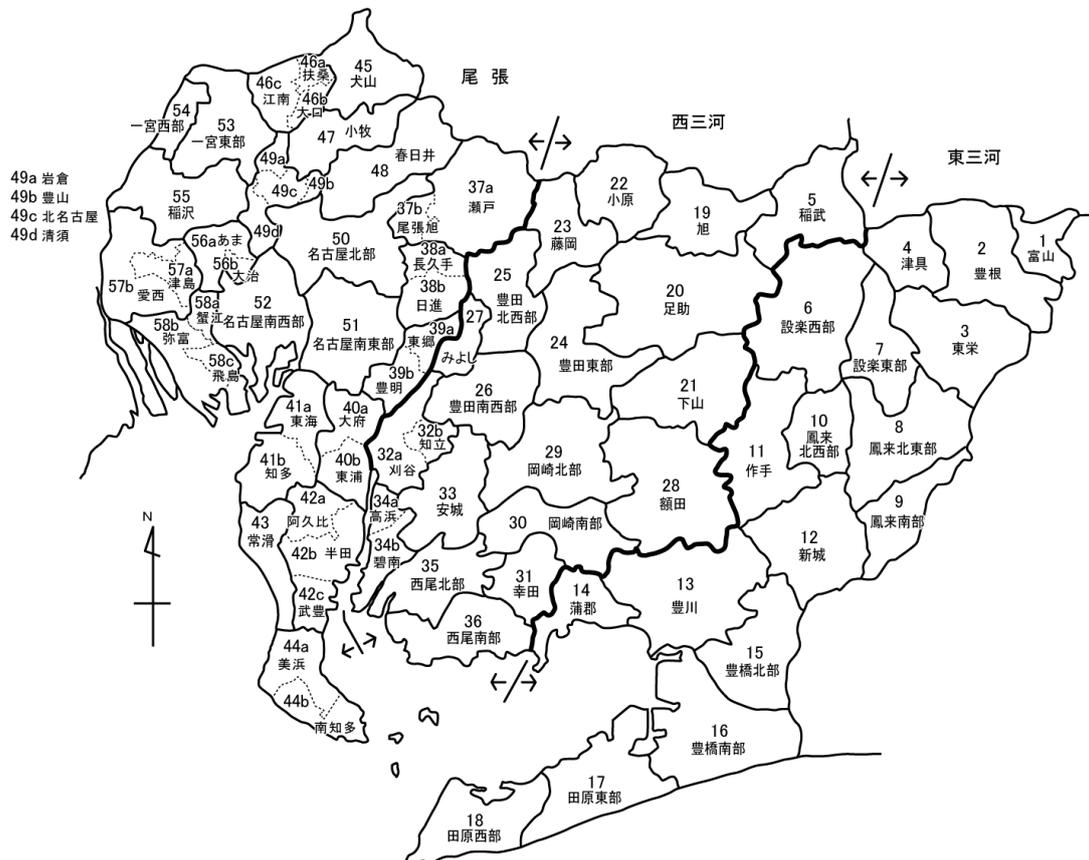
本書で扱った範囲は、内容的には「帰化種」に、近隣県から人為的に移入され県内に一時的にでも定着している種を加えたものである。ただし用語としては、2012年版では「移入種」を用いたけれども、今回は環境省の扱いに合わせて、「外来種」を用いることとした。

3. 維管束植物の調査区画一覧

地域	番号	略称	範囲
東 三 河	1	富山	豊根村 (旧富山村)
	2	豊根	豊根村 (旧村域)
	3	東栄	東栄町
	4	津具	設楽町 (旧津具村)
	6	設楽西部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以西)
	7	設楽東部	設楽町 (旧町域の寒狭川・境川以東)
	8	鳳来北東部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以北、寒狭川・海老川以東)
	9	鳳来南部	新城市 (旧鳳来町の中央構造線以南)
	10	鳳来北西部	新城市 (旧鳳来町の寒狭川・海老川以西)
	11	作手	新城市 (旧作手村)
	12	新城	新城市 (旧市域)
	13	豊川	豊川市
	14	蒲郡	蒲郡市
	15	豊橋北部	豊橋市の東海道本線以北
	16	豊橋南部	豊橋市の東海道本線以南
	17	田原東部	田原市 (旧田原町、旧赤羽根町)
	18	田原西部	田原市 (旧渥美町)
	西 三 河	5	稲武
19		旭	豊田市 (旧旭町)
20		足助	豊田市 (旧足助町)
21		下山	豊田市 (旧下山村)
22		小原	豊田市 (旧小原村)
23		藤岡	豊田市 (旧藤岡町)
24		豊田東部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以東)
25		豊田北西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道 153 号バイパス以北)
26		豊田南西部	豊田市 (旧市域の矢作川・御船川以西、国道 153 号バイパス以南)
27		みよし	みよし市
28		額田	岡崎市 (旧額田町)
29		岡崎北部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以北)
30		岡崎南部	岡崎市 (旧市域の矢作川・乙川・男川以南)
31		幸田	幸田町
32a		刈谷	刈谷市
32b		知立	知立市
33		安城	安城市
34a		高浜	高浜市
34b	碧南	碧南市	
35	西尾北部	西尾市 (旧市域)	
36	西尾南部	西尾市 (旧一色町、吉良町、幡豆町)	
尾 張	37a	瀬戸	瀬戸市
	37b	尾張旭	尾張旭市
	38a	長久手	長久手市
	38b	日進	日進市
	39a	東郷	東郷町
	39b	豊明	豊明市
	40a	大府	大府市
	40b	東浦	東浦町
	41a	東海	東海市
	41b	知多	知多市
42a	阿久比	阿久比町	
42b	半田	半田市	
42c	武豊	武豊町	

(次頁に続く)

地域	番号	略称	範囲
尾張	43	常滑	常滑市
	44a	美浜	美浜町
	44b	南知多	南知多町
	45	犬山	犬山市
	46a	扶桑	扶桑町
	46b	大口	大口町
	46c	江南	江南市
	47	小牧	小牧市
	48	春日井	春日井市
	49a	岩倉	岩倉市
	49b	豊山	豊山町
	49c	北名古屋	北名古屋市
	49d	清須	清須市
	50	名古屋北部	名古屋市西区、北区、中区、東区、守山区、千種区、名東区
	51	名古屋南東部	名古屋市昭和区、瑞穂区、南区、天白区、緑区
	52	名古屋南西部	名古屋市中村区、熱田区、中川区、港区
	53	一宮東部	一宮市 (奥町を除く旧市域)
	54	一宮西部	一宮市 (奥町、旧木曾川町、旧尾西市)
	張	55	稲沢
56a		あま	あま市
56b		大治	大治町
57a		津島	津島市
57b		愛西	愛西市
58a		蟹江	蟹江町
58b		弥富	弥富市
58c		飛島	飛島村



4. グリーンデータブックに掲載されていない種の確認区画

維管束植物の愛知県外来種リスト (p.30~43) のうち、GDB 掲載頁が空欄になっていて、「愛知県における主要外来種の現状」にも収録されていない種の確認区画 (付録3参照) は、以下のとおりである。

和名 (科名)	確認区画 ※
園芸スイレン (スイレン科)	GDB2017 : p.100 参照 (GDB2017 ではセイヨウスイレンとしたが、複数種を含み同定困難なので、本書ではこのように表記した)
イシガキコショウ (コショウ科)	西 : 29 尾 : 50
オハツキギボウシ (キジカクシ科)	西 : 25, 29, 30, 31, 33 尾 : 38a, 38b, 41a, 43, 50
ヒメヒゲシバ (イネ科)	東 : 18
シロタカオススキ (イネ科)	東 : 16, 17
ムラサキタカオススキ (イネ科)	尾 : 44b
ツルズズメノカタビラ (イネ科)	尾 : 50
ツクシズズメノカタビラ (イネ科)	東 : 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18 西 : 20, 30, 32a, 36 尾 : 46a, 50, 51, 52, 56b
サンヘンブ (マメ科)	東 : 16 尾 : 48
イワムシロ (バラ科)	東 : 13
オランダワレモコウ (バラ科)	東 : 13
カラムシ・ナンバンカラムシ中間型 (イラクサ科)	東 : 12 西 : 20, 21, 23, 26, 30, 33, 36 尾 : 38b, 41b, 46a, 54, 55
ラセイタソウ・ニオウヤブマオ中間型 (イラクサ科)	東 : 18 尾 : 44b
シンチクニシキソウ (トウダイグサ科)	東 : 14
バルカンノウルシ (トウダイグサ科)	尾 : 50, 51
ヒメサンシキスマレ (スマレ科)	東 : 8
キクバフウロ (フウロソウ科)	東 : 13
アブラナ (アブラナ科)	東 : 12, 13, 15, 18 西 : 20 尾 : 44b, 52
ヒメナズナ (アブラナ科)	尾 : 55
ミドリコギンギン (タデ科)	RDB あいち 2020 植物編 : p.688 参照
エゾノギンギン緑柄型 (タデ科)	東 : 4 尾 : 56a
ナガバギンギン×ミドリコギンギン (タデ科)	尾 : 49d
ハイミミナグサ (ナデシコ科)	東 : 2, 11 西 : 36 尾 : 52
シュッコンカスミソウ (ナデシコ科)	尾 : 50
ミチバタナデシコ (ナデシコ科)	尾 : 43, 50, 52
ナガバツメクサ (ナデシコ科)	東 : 2
ヒメハマアカザ (ヒユ科)	西 : 5
コバンコナスビ (サクラソウ科)	西 : 5
ナガエノセンナリホオズキ (ナス科)	東 : 18 西 : 36 尾 : 41a, 43, 52
ヒロハフウリンホオズキ (ナス科)	東 : 14, 15, 16, 17 西 : 24, 25, 26, 30, 32a 尾 : 38a, 38b, 39b, 43, 48, 50, 52, 56a
ホソバフウリンホオズキ (ナス科)	西 : 36 尾 : 43
アイフウリンホオズキ (ナス科)	東 : 14, 15, 16, 17, 18 西 : 28, 32b 尾 : 40a, 41a, 41b, 43, 48, 50, 52, 58c
ビロードホオズキ (ナス科)	東 : 11 尾 : 50, 52
ヒメセンナリホオズキ (ナス科)	東 : 2, 3, 4, 15 西 : 19, 23, 24, 26, 29, 32a, 33 尾 : 38a, 41b, 44a, 44b, 46a, 48, 49d, 50, 51, 52, 55
ランタナ (クマツヅラ科)	東 : 15, 16, 18 西 : 24, 32b 尾 : 41b, 42b, 43, 44a, 48, 49a, 49d, 50, 51, 52, 54
セイヨウナギナタコウジュ (シソ科)	西 : 19
ブラジリアンセージ (シソ科)	西 : 29
ソライロサルビア (シソ科)	西 : 36
シマホタルブクロ (キキョウ科)	東 : 14 西 : 35 尾 : 41b, 51
アオバナフジバカマ (キク科)	東 : 13

和名 (科名)	確認区画 ※
キヌゲチチコグサ (キク科)	東 : 16
イガトキンソウ (キク科)	東 : 17, 18 西 : 34a 尾 : 38b, 44b, 49a, 51, 52, 55, 56b, 58b

※ 東は東三河地域、西は西三河地域、尾は尾張地域を示す。

5. 調査・編集体制

本誌「愛知県の外来種—ブルーデータブックあいち 2021」は、愛知県によって平成 28 年度に設置された「愛知県外来種調査検討会」が、外部の方の協力を得ながら編集した。委員の構成、所属および専門分野等は以下のとおりである。

氏名	所属・職名等 ※1	専門分野等	任期 (年度) ※2
浅井 聡司	愛知県自然観察指導員連絡協議会会長	自然観察団体	R2
天野 勲	日本甲殻類学会会員	カニ類	H30
木村 昭一	日本貝類学会評議員	貝類	H28～30, R1～2
國村 恵子	名古屋市水辺研究会代表	水辺の動植物	H28, R1～2
子安 和弘	愛知学院大学歯学部講師	哺乳類	H29, R1～2
芹沢 俊介	愛知教育大学教育学部名誉教授 [座長]	維管束植物類	H28～30, R1～2
高橋 伸夫	愛知県野鳥保護連絡協議会議長	鳥類	H29, R1～2
瀧崎 吉伸	豊橋市立東部中学校教諭	維管束植物類	H28～30, R1～2
谷口 義則	名城大学人間学部教授	淡水魚類	H28, R1～2
戸田 尚希	名城大学農学部昆虫学研究室研究員	昆虫類	H29, R1～2
中嶋 清徳	名古屋港水族館飼育展示第一課課長	水族館	H30, R1～2
西本 浩之	愛知県農業総合試験場環境基盤研究部 病虫害防除室長	農業害虫	H29, R1～2
堀田 守	愛知県自然観察指導員連絡協議会副会長	自然観察団体	H28～30, R1
増田 理子	名古屋工業大学工学研究科教授	保全生態学	H28～30, R1～2
矢部 隆	愛知学泉大学現代マネジメント学部教授	両生類・爬虫類	H28, R1～2

※1 所属・職名等は任期末時点のもの。 ※2 Hは平成, Rは令和を示す。

実際の調査・編集作業は、以下の体制で行った。

全体の編集・概説部分執筆：芹沢俊介

哺乳類

執筆責任者：子安和弘・曾根啓子（愛知学院大学歯学部）

調査協力者（団体）：

大熊千晶 岡田慶範 小鹿 亨 小鹿登美 川島賢治 梶 忠義 加藤貞亨
川田奈穂子 北山克己 小池 彩 佐竹義雄 杉山時雄 高橋伸夫 寺西敏夫
名和 明 長谷川道明 水野マリ子 安井謙介 吉鶴靖則 (五十音順, 敬称略)
愛知学院大学歯学部解剖学講座 愛知学院大学歯学部歯科資料展示室 社団法人愛知県ペストコントロール協会
豊田市自然観察の森 豊田市矢作川研究所 豊田市市史編さん室 豊田市猟友会 豊橋市立自然史博物館
名古屋哺乳類研究会 西三河野生生物研究会 鳳来寺山自然科学博物館 守山リス研究会 ほかに

鳥類

執筆責任者：高橋伸夫

調査協力者（団体）：

秋山幸之朗 浅井 光 浅井利明 天野弘朗 五百澤日丸 伊藤岱二 稲田浩三
今岡利保 岩井 昇 太田次雄 大畑孝二 大羽康利 大森千晶 小笠原正博
緒方清人 荻野真市 織田重己 片山卓也 加藤正人 木村修司 糸 克彦
倉多利通 小池 彩 小嶋良武 小林 学 木野浩一 西郷 清 坂田樹美
佐藤武男 篠田耕児 清水敏弘 清水正義 下村孝嘉 杉浦清丸 杉浦史弥
杉浦美佐緒 杉山時雄 鈴木真人 瀬戸良二 竹生直行 竹本 孝 寺本育夫
戸塚 学 新實 豊 野田信裕 橋本美保 花井 啓 原田建男 深見 弘
藤岡エリ子 藤川真史 古澤穎一 前田茂雄 松本哲之介 真野 徹 宮原英明
椋山恵一 吉田 健 米倉 静 渡邊幸久 (五十音順, 敬称略)

爬虫類・両生類

執筆責任者：矢部 隆・島田知彦（愛知教育大学教育学部）

調査協力者（団体）：

田村ユカ 浜崎健児 山本大輔 (五十音順, 敬称略)

魚類

執筆責任者：谷口義則・浅香智也（三河淡水生物ネットワーク）・

荒尾一樹（三河淡水生物ネットワーク）・大仲知樹（NPO 法人犬山里山学研究所）・

地村佳純（碧南海浜水族館）・鳥居亮一（三河淡水生物ネットワーク）・

向井貴彦（岐阜大学地域科学部）

調査協力者（団体）：

中島廉太郎 橋本昌尚 星野智司 名城大学理工学部環境創造学科学学生諸氏 (五十音順, 敬称略)

昆虫類

編集責任者：戸田尚希・西本浩之

執筆責任者：

農業関連種 伊藤啓司（元愛知県農業総合試験場）

石本聖絵・黒野大稀・藤田智美・森本杏子 (愛知県農業総合試験場)
 チョウ類 間野隆裕 (名古屋昆虫同好会)・戸田尚希
 ハチ類 間野隆裕
 ハヤトゲフシアリ 小川尚文 (岐阜県立各務原西高等学校)
 その他のアリ類 坂本洋典 (国立研究開発法人国立環境研究所)
 その他の種 戸田尚希

調査協力者 (団体) :

荒谷邦雄 石川進一朗 伊藤健太郎 岩野秀俊 大草伸治 大野 徹 大野友豪
 小笠原芳夫 緒方清人 岡部貴美子 奥田清人 五箇公一 杉坂美典 内藤遊多
 中橋 徹 長谷川道明 平井規央 牧野俊一 森 延博 山岸健三 吉岡政幸
 (五十音順, 敬称略)

甲殻類・その他の淡水・海産無脊椎動物

執筆責任者: 中嶋清徳・斉藤知己 (高知大学総合研究センター)

調査協力者 (団体) :

天野 勲 加藤哲哉 田中利雄 山口寿之
 蒲郡市立竹島水族館 名古屋港水族館 (五十音順, 敬称略)

クモ類

執筆責任者: 緒方清人 (日本蜘蛛学会)

調査協力者 (団体) :

緒方ふみ 杉山時雄 戸田尚希 中部蜘蛛懇談会 (五十音順, 敬称略)

貝類

執筆責任者: 木村昭一・柏尾 翔 (きしわだ自然資料館)

調査協力者 (団体) :

岩田明久 河合秀高 川瀬基弘 河辺訓受 木村妙子 佐藤達也 鈴木望海
 西 浩孝 原田一夫 早瀬善正 藤岡エリ子 守谷茂樹
 愛知県水産試験場 愛知県立三谷水産高等学校 熱田神宮 蒲郡市立竹島水族館 汐川干潟を守る会
 豊田市矢作川研究所 豊橋市立自然史博物館 名古屋貝類談話会 名古屋城管理事務所
 三重大学生物資源学部 (五十音順, 敬称略)

コケ植物

調査協力者 (団体) : 成田 務 (故人) 山田耕作 (五十音順, 敬称略)

維管束植物

執筆責任者: 瀧崎吉伸・芹沢俊介

調査協力者:

今回のブルーデータブックは、愛知みどりの会に保管されている愛知県産維管束植物標本と、その採集者から聞き取った観察情報に基づき作成された。これらの標本は多くの方々の協力によって集積されたもので、愛知県植物誌調

査会発足以降にあい知県の自然環境情報蓄積という目的を持って採集されたもののほか、ブルーデータブック作成に使用されることを全く想定せずに採集されたものも多数含まれている。結果的に、この標本集積に協力して下さった方々が調査協力者ということになる。それぞれの種について協力いただいた方は、「県内の分布」の項に、標本採集者として示されている。また、一部の種の同定に際しては、近畿植物同好会の植村修二氏、水田光雄氏、神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男氏に大変お世話になった。

執筆責任者について

執筆責任者は、各種解説の末尾にも表記した。また、必要に応じ、2012年版の執筆責任者も表記した。なお、ここで「執筆責任者」というのは「本書に書かれた内容に責任を持つ者」という意味で、「本書の文章を作成した者」という意味ではない。今回の「ブルーデータブックあいち2021」は、2012年版の改訂版であるが、旧版との内容の一貫性を保つため、今回の執筆責任者が内容上特に問題がないと判断した部分については、原則として旧版の文章表現をそのまま踏襲することとした。

6. 文献等補遺

哺乳類

宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一. 1984. 哺乳類. 愛知の動物 pp.286-325. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

鳥類

愛知県環境部 鳥類調査結果. 愛知県 HP <http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/chouturi/index.html>
国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター. 侵入生物データベース 鳥類.
http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/toc2_birds.html

爬虫類

- D. I. Kim, I. K. Park, H. Ota, J. J. Fong, J. S. Kim, Y. P. Zhang, S. R. Li, W. J. Choi, and D. Park. 2019. Patterns of morphological variation in the Schlegel's Japanese gecko (*Gekko japonicas*) across populations in China, Japan, and Korea. *Journal of Ecology and Environment* 43: 34.
- 疋田 努・鈴木 大. 2010. 江戸本草書から推定される日本産クサガメの移入. *爬虫両棲類学会報* 2010(1), 41-46.
- 平山 廉. 2001. 大分県安心院町の津房川層 (鮮新統) より産出した化石カメ類 (安心院動物化石群). *琵琶湖博物館 研究調査報告* 第 18 号: 79-96.
- J. S. Kim, J. Park, J. J. Fong, Y. P. Zhang, S. R. Li, H. Ota, S. H. Min, M. S. Min & D. k Park. 2020. Genetic diversity and inferred dispersal history of the Schlegel's Japanese Gecko (*Gekko japonicas*) in Northeast Asia based on population genetic analyses and paleo-species distribution modelling. *Mitochondrial DNA Part A* 31: 120-130.
- Oh, Park, and Han. 2017. Mitochondrial haplotype distribution and phylogenetic relationship of an endangered species Reeve's turtle (*Mauremys reevesii*) in East Asia. *Journal of Asia-Pacific Biodiversity* 10: 27-31.
- Suzuki, Ota, Oh, and Hikida. 2011. Origin of Japanese Populations of Reeves' Pond Turtle, *Mauremys reevesii* (Reptilia: Geoemydidae), as Inferred by a Molecular Approach. *Chelonian Conservation and Biology*, 10(2):

237-249.

Suzuki D. and T. Hikida. 2014. Taxonomic status of the soft-shell turtle populations in Japan: a molecular approach. *Current Herpetology* 33: 171-179.

高橋亮雄・中島彩智・野島 永・安部みき子・亀崎直樹. 2018. ニホンイシガメと日本産のクサガメの化石および骨格残骸の記録に関する新知見 (学会大会講演要旨). *爬虫両棲類学会報* 2018(1), 90.

Takahashi, Kusaka, and Kamezaki. 2020. Skeletal remains of *Mauremys reevesii* (Testudines: Geoemydidae) from a late medieval archeological site in Fukuyama City, Hiroshima Prefecture, western Japan. *Current Herpetology*, 38(2): 160-168.

昆虫類

浅野 隆・大鐘裕通・小川浩太. 2018. 愛知県にてフェモラータオオモボトハムシの発生を確認. *月刊むし*, No.565, 54-55.

国立研究開発法人 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター. 侵入生物データベース 節足動物門 昆虫綱. https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/resources/listja_miscinsects.html

クモ類

八木沼健夫. 1982. オダカユウレイグモ日本で発見. *Atypus*, 80: 15-18.

貝類

Saito, T., V.T. Do, L. Prozorova, T. Hirano, H. Fukuda and S. Chiba, 2018. Endangered freshwater limpets in Japan are actually alien invasive species. *Conservation Genetics*, 19: 947-958.

維管束植物

M. Masuda, T. Fukagawa, F. Nishimura. 2017. Genetic diversity and genetic structure of an endangered species, *Eriocaulon nudicuspe*, growing in artificial disturbing habitats. *International Journal of GEOMATE*. 13: pp136-143.

愛知県環境局. 2020. 愛知県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックあいち 2020 植物編 p.162. 愛知県.

世界の分布, 日本の分布, 移入の経緯以外は, 原則として文献によらず, 標本および現在までの現地調査記録, 聞き取り記録に基づき記述した。やむを得ず文献によった事項については, 出典を各種の解説中に示した。世界の分布, 日本の分布, 移入の経緯は, その種に関する各種文献を総合して記述した。関連文献の項で用いた略号は, 以下のとおりである。

- 北帰化 : 長田武正. 1972. 日本帰化植物図鑑. 254pp. 北隆館, 東京.
- 保木Ⅱ : 北村四郎・村田 源. 1979. 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ. 545pp. 保育社, 大阪.
- 保帰化 : 長田武正. 1976. 原色日本帰化植物図鑑. 425pp. 保育社, 大阪.
- 平帰化 : 清水建美(編). 2003. 日本の帰化植物. 337pp. 平凡社, 東京.
- 平新版1 : 大橋広好ほか(編). 2015. 改定新版 日本の野生植物 1. 666pp. 平凡社, 東京.
- 平新版2 : 大橋広好ほか(編). 2016. 改定新版 日本の野生植物 2. 640pp. 平凡社, 東京.
- 平新版3 : 大橋広好ほか(編). 2016. 改定新版 日本の野生植物 3. 604pp. 平凡社, 東京.
- 平新版4 : 大橋広好ほか(編). 2017. 改定新版 日本の野生植物 4. 608pp. 平凡社, 東京.

- 平新版5 : 大橋広好ほか(編). 2017. 改定新版 日本の野生植物5. 760pp. 平凡社, 東京.
- 農教I : 清水矩宏ほか. 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 553pp. 全国農村教育協会, 東京.
- 農教II : 植村修二ほか. 2010. 日本帰化植物写真図鑑 第2巻. 579pp. 全国農村教育協会, 東京.
- N水草 : 角野康郎. 2014. ネイチャーガイド 日本の水草. 326pp. 文一総合出版, 東京.
- 学シダI : 海老原淳. 2016. 日本産シダ植物標準図鑑I. 450pp. 学研プラス, 東京.

和名索引【動物】

あ

アオマツムシ	18
アカアシホシカムシ	20
アカウキクサゾウムシ	22
アカオビカツオブシムシ	20
アカカミアリ	28
アカクビホシカムシ	20
アカボシゴマダラ	22, 87
アズキガイ	24, 98
アズキマメゾウムシ	22
アストロノータス	28
アトグロホソアリモドキ	22
アトラスオオカブト	28
アナウサギ	18, 47
アノマロクロミス・トーマシー	28
アミガサハゴロモ近似種	20
アメマス	28
アメリカカブトエビ	24
アメリカザリガニ	24, 94
アメリカジガバチ	24
アメリカシロヒトリ	22
アメリカフジツボ	24, 96
アメリカミズアブ	22
アライグマ	18, 51
アラゲヒラタキクイムシ	20
アリゲーターガー	28, 61
アルゼンチンアリ	24, 91
アルファルファタコゾウムシ	22
アワダチソウグンバイ	20

い

イエシロアリ	18
イエヒメアリ	24
イガ	22
イガイダマシ	26, 99
イセリアカイガラムシ	20
イッカククモガニ	24

イッテンオオメイガ	22
イネミズゾウムシ	22
イノブタ	18, 52
イラガセイボウ	24

う

ウオシタチズガメ	28
ウシガエル	18, 60
ウスイロオカチグサ	24, 98
ウスカラシオツガイ	26, 99
ウスグモズ	18
ウスバキスイ	20

え

エンドウゾウムシ	22
----------	----

お

オウゴンオニクワガタ	28, 82
オオガタスジシマドジョウ	18
オオクチバス	18, 69
オオクビキレガイ	24, 99, 106
オオクワガタ属の一種	28, 82
オオケチョウバエ	22
オオシラホシハゴロモ	20
オオタバコガ	24
オオナガシクイ	20
オオマリコケムシ	24
オオミノガ	22
オカモノアラガイ属の1種	24
オダカユウレイグモ	24
オナジマイマイ	24, 99
オヤニラミ	18, 67

か

ガー科	28, 61
外国産クワガタムシ	82
ガイマイゴミムシダマシ	22
カキクダアザミウマ	20

カサネカンザシ	24
カシノシマメイガ	22
カダヤシ	18, 62
カドコブホソヒラタムシ	20
カドマルカツオブシムシ	20
カニヤドリカンザシ	24
カネヒラ	18
カパイロヒョウホシムシ	20
ガビチョウ	28
カマドコオロギ	18
カムルチー	18
カラドジョウ	18, 64
カワヒバリガイ	24, 99, 108
カワマス	28
カワラバト	18, 54
カワリヌマエビ属の一種	24

き

キイロショウジョウバエ	22
ギギ	18
キジ	189
キタクロコブチズガメ	28
キバラガメ	28
キマダラカメムシ	20
キューバンガー	28, 61
キョウチクトウスズメ	22
ギラファノコギリクワガタ	28, 82
キンギョ	28

く

クサガメ	189
クスベニヒラタカスミカメムシ	20, 79
グッピー	28
クビアカツヤカミキリ	22, 83
クビレヒメマキムシ	22
クモガタテントウ	20
グラジオラスアザミウマ	18
クリイロデオキスイ	20

クリタマバチ	24
クリヤケシキスイ	20
クロガケジグモ	24
クロキンバエ	22
クロゴキブリ	18, 74
クロコソデウミウシ	24, 98, 102
クロチビエンマムシ	20
クロテンオオメンコガ	22

け

ケオプスネズミノミ	22
ケチビコフキゾウムシ	22
ケブカシバンムシ	20
ケプトヒラタキイムシ	20
ゲンゴロウブナ	18
ゲンジボタル	191

こ

コイ (飼育型)	18
コイガ	22
交雑イノシシ	18, 52
コウロエンカワヒバリガイ	24, 99
コガシラコバネナガカメムシ	20
コクチバス	28
コクヌスト	20
コクヌストモドキ	22
コクマルハキバガ	22
ココクゾウムシ	22
ココポーマアカフジツボ	28
コゴメゴミムシダマシ	22
コシダカヒメモノアラガイ	24, 98
コジュケイ	18, 53
コハクオナジマイマイ	24, 99
コハクガイ	24
コブハクチョウ	28
コメノケシキスイ	20
コメノゴミムシダマシ	22
コメノシマメイガ	22
コモチカワツボ	24
コルリアトキリゴミムシ	20

コワモンゴキブリ	18
----------	----

さ

サカマキガイ	24, 98
サキグロタマツメタ	24, 98, 101
サクラマス・ヤマメ	28
サツマゴキブリ	18
サトセナガアナバチ	24
サビカクムネチビヒラタムシ	20
サビナカボソタマムシ	20

し

シバオサゾウムシ	22
シバツトガ	22
シベリアイタチ	18
シマメノウフネガイ	24, 98
ジャガイモキバガ	22
ジュウシホシキイロオオハムシ	22
シラホシヒメカツオブシムシ	20
シロオビカッコウムシ	20
シロオビマルカツオブシムシ	20
シロタエミノウミウシ属の一種	24, 98, 104
シロホシヒメグモ	24
ジンサンシバンムシ	20

す

スクミリンゴガイ	24, 98, 100
スゴモロコ	18
スジハサミムシ	20
スポッテッドガー	28, 61
スマトラオオヒラタクワガタ	28, 82

せ

セアカゴケグモ	24, 97
セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	20
セイヨウミツバチ	24

そ

ソウギョ	28
ソウシチョウ	18, 55

ソラマメゾウムシ	22
----------	----

た

ダイオウヒラタクワガタ	28, 82
タイリククサキリモドキ	18, 73
タイリクスズキ	28
タイリクバラタナゴ	18, 63
タイワンシジミ	26
タイワンタケクマバチ	24, 93
タウナギ	18
タケオオツツク	20, 81
タケノホソクロバ	22
タテジマフジツボ	24, 96
タテジマフジツボ種群	96
タバココナジラミ バイオタイプB	20
タバココナジラミ バイオタイプQ	20, 78
タバコシバンムシ	20
タバコノミハムシ	22

ち

チカイエカ	22
チチュウカイミドリガニ	24, 95
チビタケナガシンクイ	20
チャイロコメノゴミムシダマシ	22
チャコウラナメクジ	24, 99
チャトゲコナジラミ	20, 77
チャネルキャットフィッシュ	18, 71
チャバネゴキブリ	18
チュウゴクスジエビ	24
チョウセンブナ	28

つ

ツシムムナクボカミキリ	22
ツチフキ	18
ツヅリガ	22
ツマアカオオヒメテントウ	20
ツマグロカミキリモドキ	22
ツマジロクサヨトウ	28, 89
ツヤクワガタ属の一種	28, 82

と

トガリアメンボ	20
トクサオカチョウジガイ	24, 99
トゲスッポン	28
トゲムネクスイ	20
トコジラミ	20
ドバト	18, 54
トビイロゴキブリ	18
トビイロデオネスイ	20
トビカツオブシムシ	20
トマトハモグリバエ	22
トロビカルガー	28

な

ナイルティラピア	18, 66
ナガヒョウホンムシ	20
ナシヒメシンクイ	22
ナナホシヒメグモ	24

に

ニジマス	18
ニセセマルヒョウホンムシ	20
ニッコウイワナ	18
ニホンスッポン	190

ぬ

ヌートリア	18, 46
ヌノメカワニナ	24

ね

ネギアザミウマ	18
---------	----

の

ノイヌ	18, 50
ノコギリヒラタムシ	20
ノシメマダラメイガ	22
ノネコ	18, 48
ノハラナメクジ	24, 99

は

ハイイロゴケグモ	28
バクガ	22
ハクビシン	18, 49
ハクライオウギガニ	24
ハクレン	28
ハス	18
ハナアザミウマ	18
ハナガメ	18, 56
ハナガメ×クサガメ	18
ハナガメ×ニホンイシガメ	18
ハブタエモノアラガイ	24, 98, 105
ハヤトゲフシアリ	24, 90
ハラアカコブカミキリ	22
ハラジロカツオブシムシ	20
ハリエンジュバチ	24
ハルカガケジグモ	24

ひ

ヒアリ	28, 92
ヒメイエバエ	22
ヒメカツオブシムシ	20
ヒメコハク	24
ヒメダカ	28
ヒメヒョウホンムシ	20
ヒメフタトゲホソヒラタムシ	20
ヒメモノアラガイ	24, 98
ヒラタキクイムシ	20
ヒラタコクヌストモドキ	22
ピラニアナツテリ	28
ヒロヘリアオイラガ	22
ヒロマキミズマイマイ	24
ビワヒガイ	18
ビワヨシノボリ	18

ふ

フェモラータオオモモプトハムシ	22, 85
フサコケムシ科の一種	24
フジェラミノウミウシ属の一種	24, 98, 103

フタオビツヤゴミムシダマシ	22
ブタクサハムシ	22
フタトゲホソヒラタムシ	20
ブラウジングアント	24, 90
ブラウントラウト	18, 65
ブラタナスグンバイ	20
ブルーギル	18, 68
フロリダアカハラガメ	28
フロリダガー	28, 61
フロリダスッポン	28

へ

ヘイケボタル	191
ヘクソカズラグンバイ	20
ベダリアテントウ	22
ベニスズメ	18
ペニンシュラクーター	28
ヘリアカゴミムシダマシ	22
ヘリチャハゴロモ(仮)	20

ほ

ホーペオオクワガタ	28, 82
ホクベイカミツキガメ	18, 58
ホシチョウバエ	22
ホソオトショウ	22, 86
ホソヒメマキムシ	22
ポリプテルス・オルナティピニウス	28
ホンビノスガイ	28, 99, 109
ホンモロコ	18

ま

マダラヒメグモ	24
マダラロリカリア	28
マツヘリカメムシ	20, 80
マツモトカイメン	24
マンハッタンボヤ	18

み

ミカンキイロアザミウマ	18
ミカントゲコナジラミ	20

ミシシippアカミミガメ	18, 57
ミスジキイロテントウ	20
ミドリイガイ	24, 99
ミナトオウギガニ	24
ミナマイシガメ	28
ミナミキイロアザミウマ	18, 76
ミナミメダカ	191

む

ムギツク	18
ムシヤクロツバメシジミ	22, 88
ムネアカハラビロカマキリ	18, 72
ムラサキイガイ	24, 99

め

メガロドラス	28
メリケンゴザラ	24, 98
メリケンスナガイ	24

も

モトジロアザミウマ	18, 75
モンクチビルテントウ	20
モンシロチョウ	22

や

ヤエヤマイシガメ	28
ヤサイゾウムシ	22
ヤマドリ	189

よ

ヨーロッパフジツボ	24, 96
ヨコシマドンコ	18, 70
ヨコヅナサシガメ	20
ヨツモンカメノコハムシ	22, 84
ヨツモンマメゾウムシ	22

ら

ラミーカミキリ	22
---------	----

り

リパークーター	28
---------	----

る

ルビーロウムシ	20
ルリホシカムシ	20

ろ

ロングノーズガー	28, 61
----------	--------

わ

ワカケホンセイインコ	18
ワカサギ	18
ワタミヒゲナガゾウムシ	22
ワタムシヤドリコバチ	24
ワニガメ	28, 59
ワモンゴキブリ	18

和名索引【植物】

あ

アイオオアカウキクサ	30, 111
アイオナモミ	42
アイグロマツ	30
アイナシ	34
アイノゲシ	42
アイノコギシギシ	37
アイノコタカサブrow	42
アイフウリンホオズキ	39, 197
アオギリ	36
アオゲイトウ	38
アオジソ	41
アオスズメノカタビラ	33
アオバナフジバカマ	41, 197
アオモジ	30

アカザ	38
アカジソ	40
アカバナメドハギ	34
アカバナルリハコベ	39
アカミタンポポ	42, 185
アキマルニワゼキショウ	30
アコウゲンバイ	37
アサ	35
アサガオ	39
アサザ	41
アザミゲシ	33
アジサイ	38
アツバキミガヨラン	31, 122
アツミゲシ	33
アブラギリ	35
アブラナ	37, 197

アフリカチゴアヤメ	30
アフリカヒゲシバ	32
アフリカフウチョウソウ	36
アフリカホウセンカ	38, 158
アマゾントチカガミ	30, 119
アマミキンゴジカ	36
アメリカアサガオ	39
アメリカアゼナ	40
アメリカイヌホオズキ	39
アメリカオニアザミ	41
アメリカギク	41
アメリカキササゲ	40
アメリカキンゴジカ	36
アメリカコトリミミカキグサ	40
アメリカスズカケノキ	33
アメリカスズメノヒエ	32, 133

アメリカスミレサイシン	35	イキシア ヒブリダ	30	ウシノケグサ	32
アメリカセンダングサ	41, 171	イケノミズハコベ	40, 162	ウスギキンエノコロ	33
アメリカセンニチコウ	38	イシガキコショウ	30, 197	ウスゲホオズキ	39
アメリカタカサブロウ	42	イスノキ	33	ウスベニアオイ	36
アメリカツノクサネム	34	イセハナビ	40	ウスベニカノコソウ	43
アメリカナデシコ	37	イタチハギ	33, 139	ウスベニチチコグサ	42
アメリカネナシカズラ	39	イタリーマンテマ	38	ウスベニツメクサ	38
アメリカノウゼンカズラ	40	イチビ	36	ウズマキウマゴヤシ	34
アメリカハッカ	40	イチョウ	30	ウズラボタンボボ	42
アメリカフウロ	36	イトコヌカグサ	31	ウチワサボテン	38, 157
アメリカミコシガヤ	31	イトツメクサ	38	ウチワゼニクサ	43, 188
アメリカミズキンバイ	36	イトバモウセンゴケ	37, 151	ウマゴヤシ	34
アメリカミズユキノシタ	36, 142	イヌエンジュ	34	ウマノチャヒキ	32
アメリカヤガミスゲ	31	イヌカキネガラシ	37	ウメ	34
アラゲハンゴンソウ	42	イヌカタヒバ	30	ウラジロアカザ	38
アラビアオオアマナ	31	イヌカミツレ	42	ウラジロチチコグサ	42
アリスガワセキショウ	30	イヌコハコベ	38	ウルシ	36
アリタソウ	38	イヌコモチナデシコ	38	ウロコハタケゴケ	30
アレチウリ	35, 141	イヌシバ	33	ウンナンソケイ	39
アレチエゾノギシギシ	37	イヌナギナタガヤ	33	ウンリュウヤナギ	35
アレチギシギシ	37	イヌハッカ	40	え	
アレチキンギョソウ	40	イヌビユ	38	エゴマ	40
アレチクダ	31	イヌヒレアザミ	41	エゾオオヤマハコベ	38
アレチケツメイ	33	イヌムギ	32	エゾスズシロ	37
アレチナガバギシギシ	37	イネ	32	エゾノギシギシ	37, 148
アレチナズナ	36	イボミキンポウゲ	33	エゾノギシギシ緑柄型	37, 197
アレチニガナ	42	イモカタバミ	35	エゾノレンリソウ	34
アレチニシキソウ	35	イモカタバミ白花型	35	エダウチニガナ	41
アレチヌスビトハギ	33	イモネアサガオ	39	エニシダ	33
アレチヌスビトハギ白花型	33	イモネノホシアサガオ	39	エノキアオイ	36
アレチノギク	41	イワムシロ	34, 197	エビスグサ	34
アレチノチャヒキ	32	イワヨモギ	41	エフクレタヌキモ	40, 166
アレチハナガサ	40	インカカタバミ	35	園芸スイレン	30, 114, 197
アレチマツヨイグサ	36	う		エンペラーミント	40
アレチモウズイカ	40	ウイキョウ	43	お	
アワ	33	ウキアゼナ	40	オウシュウトボシガラ	32
い		ウキツリボク	36	オオアザミ	42
イガオナモミ	42	ウサギアオイ	36	オオアブラギリ	35
イガトキンソウ	42, 198	ウシオハナツメクサ	38, 153		

カンザシヌホオズキ 39
カンザンチク 33

き

キウイフルーツ 39
キキョウソウ 41
キクイモ 42
キクイモモドキ 42
キクザキセンダングサ 41
キクタニギク 41
キクニガナ 41
キクノハアオイ 36
キクバフウロ 36, 197
キササゲ 40
ギンギシモドキ 37
キシウスズメノヒエ 32, 131
キショウブ 30, 121
キソケイ 39
キゾメカミツレ 41
キダチコマツナギ 34
キダチコミカンソウ 35
キダチコンギク 41
キタメヒシバ 32
キヅキチチコグサ 42
キスイトツメクサ 38
キヌゲチチコグサ 42, 198
キバナウンラン 40
キバナオドリコソウ 40
キバナコスモス 42
キバナサフランモドキ 31
キバナズシロ 37
キバナタマスダレ 31
キバナニワゼキショウ 30
キバナノマツバニンジン 35
キバナミソハギ 36
キバナムギナデシロ 42
キバナヤセウツボ 41
キビ 32
キモクレン 30
キャラボク 30

キョウチクトウ 39
キリ 41
キレハイスガラシ 37
キレハヒメオドリコソウ 40
キレハマメグンバイナズナ 37
キンギョソウ 40
キンゴジカ 36
キンシバイ 35
ギンセンカ 36
ギンバイカ 36
キンバイタウコギ 41

く

クコ 39
クジラグサ 37
クスダマツメクサ 34
クスノキ 30
クソニンジン 41
クヌギ 35
クマザサ 33
グラジオラス 30
グラジオラス トリステス 30
クリンソウ 193
クルマバザクロソウ 38
クログラシ 37
クロタネソウ 33
クロチク 33
クワイ 30
クンショウギク 42
グンバイナズナ 37

け

ケアリタソウ 38
ケイヌホオズキ 39
ケカキネガラシ 37
ケグワ 35
ケジギタリス 40
ゲッケイジュ 30
ケナシチガヤ 32
ケナシハルガヤ 31

ケナシヒメムカシヨモギ 41
ケノハラガラシ 37
ケハギ 34
ケブカアレチヌスビトハギ 33
ゲンゲ 33

こ

コアカザ 38
コアメリカスズメノヒエ 32
コイチゴツナギ 33
コウオウソウ 42
コウガイセキショウモ 30, 120
高原型マツムシソウ 43, 187
ゴウシュウアリタソウ 38
コウスイハッカ 40
コウゾ 35
ゴウダソウ 37
コウマゴヤシ 34
コウヨウザン 30
コウリヤン 33
コウリントンボボ 42
コエンドロ 43
コカナダモ 30, 118
コガネタヌキマメ 33
コケトキンソウ 42
コケマンネングサ 33
コゴメイ 31, 125
コゴメギク 42
コゴメバオトギリ 36
コゴメミズ 35, 140
コシナガワハギ 34
コショウハッカ 40
コシロノセンダングサ 41, 173
コスズメガヤ 32
コスズメノチャヒキ 32
コスモス 42
コセンダングサ 41, 172
コダチチョウセンアサガオ 39
コデマリ 35
コテングクワガタ 40

コニシキソウ	35	サンゴジュ	43	ショウジョウソウ	35
コスカグサ	31	サンヘンブ	33, 197	ショウブ	30
コハコベ	38	し		ショカツサイ	37
コバナキジムシロ	34	シオザキソウ	42	ショクヨウガヤツリ	31
コバノオランダガラシ	37	シオン	41	ショクヨウホオズキ	39
コバノセンダングサ	41	ジグザグズメノヒエ	32	シラゲオニササガヤ	32
コバノニシキソウ	35	シダレヤナギ	35	シラゲガヤ	32
コバノランタナ	40	シダレヤナギ×オオタチヤナギ	35	シラタマソウ	38
コバホウライシダ	30	シチヘンゲ	40, 167	シラタマホシクサ	191
コバンコナスビ	39, 197	シナガワハギ	34	シラユキゲシ	33
コバンソウ	32	シナサワグルミ	35	シロアヤメ	30
コフウセンカズラ	36, 145	シナダレスズメガヤ	32, 128	シロイヌナズナ	36
コブシ	30	シナレンギョウ	39	シロガネヨシ	32
ゴボウ	41	シバザクラ	38	シロガラシ	37
ゴマ	40	シバツメクサ	38	シロタエヒマワリ	42
コマツヨイグサ	36, 144	シバネム	34	シロタカオススキ	32, 197
コムギ	33	シバムギ	32	シロツメクサ	34
コムラサキ	193	シベリアメドハギ	34	シロバナオオイヌノフグリ	40
コメツブウマゴヤシ	34	シホウチク	32	シロバナゲンゲ	33
コメツブツメクサ	34	シマイボクサ	31	シロバナコバナタツナミ	41
コメツブヤエムグラ	39	シマスズメノヒエ	32, 130	シロバナシナガワハギ	34
コメバミソハギ	36	シマツユクサ	31	シロバナナガバノイシモチソウ	192
コモチナデシコ	38	シマトネリコ	39	シロバナヒメオドリコソウ	40
コモチネジレゴケ	30	シマホタルブクロ	41, 197	シロバナヒレアザミ	41
コリヤナギ	35	シマヨシ	32	シロバナマンジュシヤゲ	31
コンテリクラマゴケ	30	シヤガ	30	シロバナマンテマ	38
さ		ジャガイモ	39	シロバナヤマブキ	34
サクラソウ	39	ジャクチリソバ	37	シンチクニシキソウ	35, 197
サクラマンテマ	38	ジャグマハギ	34	ジンチョウゲ	36
ザクロ	36	ジャヤナギ	35	す	
ササゲ	34	シュウカイドウ	35	スイセン	31
サザンカ	39	シュウメイギク	33	スイレン属	30, 114, 197
サスマタモウセンゴケ	37, 150	ジュズサンゴ	38, 155	スギ	30
雑種性アカミタンポポ	42	ジュズダマ	32	スズメノナギナタ	32
雑種性セイヨウタンポポ	42, 186	シュッコンアマ	35	スダジイ	192
サトイモ	30	シュッコンカスミソウ	38, 197	スノーフレーク	31
サフランモドキ	31	シュッコンバーベナ	40	スベリヒユモドキ	38
サボンソウ	38	シュロ	31	スモモ	34
サンカクニラ	31	シュロガヤツリ	31, 126		

せ

セイタカアワダチソウ	42, 182
セイタカカナビキソウ	40
セイタカハハコグサ	42
セイバンモロコシ	33
セイヨウアブラナ	37
セイヨウウキガヤ	32
セイヨウウツボグサ	41
セイヨウエンゴサク	33
セイヨウオオバコ	40
セイヨウオダマキ	33
セイヨウトドリ	36
セイヨウカラシナ	36
セイヨウキツタ	43
セイヨウジュウニヒトエ	40
セイヨウタンポポ	42, 186
セイヨウナギナタコウジュ	40, 197
セイヨウニガナ	42
セイヨウニンジンボク	41
セイヨウノコギリソウ	41
セイヨウノコギリソウ赤花型	41
セイヨウノダイコン	37
セイヨウハコヤナギ	35
セイヨウヒイラギ	41
セイヨウヒキヨモギ	41
セイヨウヒルガオ	39
セイヨウフウチョウソウ	36
セイヨウミヤコグサ	34
セイヨウヤブイチゴ	35
セッカツメクサ	34
セッカニワゼキショウ	30
ゼニアオイ	36
ゼニアオイ白花型	36
ゼンバアオイ	36
センダイハギ	34
センダン	36
センニチノゲイトウ	38

そ

ソバ	37
ソバカズラ	37
ソライロサルビア	41, 197

た

ダイコクマメグンバイナズナ	37
ダイコン	37
タイワンツナン	36
タイワンハチジョウナ	42
タイワンホトトギス	30
タカアザミ	41
タカサゴユリ	30
ダキバアレチハナガサ	40
タケトアゼナ	40
タチアオイ	36
タチアワユキセンダングサ	41, 174
タチイヌノフグリ	40
タチオランダゲンゲ	34
タチスズメノヒエ	32, 134
タチナハカノコソウ	38
タチバナモドキ	34
タチラクウショウ	30
タツノツメガヤ	32
タデアイ	37
タニガワハンノキ	35
タマザキフタバムグラ	39
タマサンゴ	39
タマシダ	30
タマスダレ	31
タラヨウ	41
ダンギク	40
ダンゴギク	42
ダンゴツメクサ	34
ダンダンギキョウ	41
ダンドク	31
ダンドボロギク	42

ち

チクゴスズメノヒエ	32, 132
チゴカンチク	32
チチコグサモドキ	42
チャノキ	39
チャボウシノシッペイ	32
チャボタイゲキ	35
チャボチャヒキ	32
チャボツキミソウ	36
チョウセンキハギ	34
チョロギガヤ	31
チリメンジソ	40

つ

ツキミセンノウ	38
ツキミマンテマ	38
ツクシスズメノカタビラ	33, 197
ツクシスマレ	35
ツクバネアサガオ	39
ツタバウンラン	40
ツノアイアシ	33
ツノナス	39
ツノミオランダフウロ	36
ツボミオオバコ	40
ツメクサダマン	34
ツリガネズイセン	31
ツルギバモウセンゴケ	37, 149
ツルコウゾ	35
ツルスズメノカタビラ	33, 197
ツルドクダミ	37
ツルニチニチソウ	39, 159
ツルノゲイトウ	38
ツルマンネングサ	33
ツルムラサキ	38

て

テーダマツ	30
テッポウユリ	30
テリミノイヌホオズキ	39

テンジクスゲ	31
テンダイウヤク	30
テンニンギク	42

と

トウカエデ	36
トウキ	43
トウキササゲ	40
トウクサハギ	34
トウゴマ	35
トウシャジン	41
トウジュロ	31
トウチク	33
トウネズミモチ	40, 161
トガマダイオウ	37
トガリバツメクサ	34
トキワサンザシ	34
トクサ	30
トケイソウ	35
トゲチシャ	42
トゲナシチョウセンアサガオ	39
トゲナシハリエンジュ	34
トゲミノキツネノボタン	33
トマト	39
トマトダマシ	39
トモエソウ	192

な

ナガイモ	30
ナガエアオイ	36
ナガエコミカンソウ	35
ナガエノセンナリホオズキ	39, 197
ナガエノフタバムグラ	39
ナガエモウセンゴケ	37, 152
ナガバアメリカミコシガヤ	31
ナガバオモダカ	30, 116
ナガバギシギシ	37
ナガバギシギシ×ミドリコギシギシ	37, 197
ナガハグサ	33
ナガバツメクサ	38, 197

ナガバノイシモチソウ	193
ナガバハアザミ	40
ナガバハッカ	40
ナガバハリフタバムグラ	39
ナガバメドハギ	34
ナガミヒナゲシ	33
ナガミヒナゲシ白花型	33
ナギ	30
ナギナタガヤ	33
ナシ	34
ナツズイセン	31
ナツミカン	36
ナツメ	35
ナニワイバラ	35
ナヨクサフジ	34
ナヨクサフジ白花型	34
ナリヒラダケ	33
ナルトサワギク	42, 181
ナンカイヌカボ	31
ナンキンギシギシ	37
ナンキンハゼ	35
ナンテン	33
ナンバンカラムシ	35

に

ニオイスミレ	35
ニガハッカ	40
ニコゲヌカキビ	32
ニシキアオイ	36
ニシキハギ	34
ニシノオオアカウキクサ	30, 110
ニシヨモギ	41
ニセアゼガヤ	32
ニセコウガイゼキショウ	31
ニセシマニシキソウ	35
ニセシラゲガヤ	32
ニチナンオオバコ	40
ニッケイ	30
ニラ	31
ニワウメ	34

ニワウルシ	36, 146
ニワサキタネツケバナ	37
ニワゼキショウ	30
ニワゼキショウ×セッカニワゼキショウ	30
ニワナズナ	37
ニワナナカマド	35
ニワフジ	34
ニンジンボク	41

ぬ

ヌカイトナデシコ	37
ヌカススキ	31
ヌマスギ	30

ね

ネズミホソムギ	32
ネズミムギ	32
ネバリコメツブウマゴヤシ	34
ネバリノミノツヅリ	37
ネビキミヤコグサ	34

の

ノウゼンカズラ	40
ノースポールギク	42
ノゲイトウ	38
ノゲシバムギ	32
ノコギリタイゲキ	35
ノジアオイ	36
ノヂシャ	43
ノハカタカラクサ	31, 123
ノハラガラシ	37
ノハラクサフジ	34
ノハラジャク	43
ノハラダイオウ	37
ノハラツメクサ	38
ノハラナデシコ	37
ノハラムラサキ	39
ノボロギク	42
ノミノコブスマ	38
ノミノツヅリ移入型	37

ノラニンジン 43

は

ハイアワユキセンダングサ 41

ハイキジムシロ 34

ハイキンボウゲ 33

ハイコウリンタンポポ 42

ハイニシキソウ 35

ハイビユ 38

ハイミチャナギ 37

ハイミミナグサ 37, 197

ハイメドハギ 34

パイモ 30

ハガワリトボンガラ 32

ハキダメガヤ 32

ハキダメギク 42

バクヤギク 38, 154

ハコネウツギ 43

ハコベホオズキ 39

ハゴロモモ 30, 113

バショウ 31

ハス 33

ハゼノキ 36

ハゼラン 38

ハタケニラ 31

ハタザオガラシ 37

ハチク 33

ハツユキソウ 35

ハナウリクサ 40

ハナガサギク 42

ハナカザリゼリ 43

ハナカタバミ 35

ハナカンナ 31

ハナキササゲ 40

ハナクサキビ 32

ハナスベリヒユ 38

ハナヅルソウ 38

ハナツルボラン 31

ハナトウバナ 40

ハナトラノオ 41

ハナニラ 31

ハナヌカススキ 31

ハナハギ 33

ハナハッカ 40

ハナハマセンブリ 39

ハナビシソウ 33

ハナヤエムグラ 39

ハネミギク 42

ハビコリハコベ 41, 169

ハブソウ 34

ハマオモト 31

ハマカキネガラシ 37

ハマガヤ 32

ハマチャヒキ 32

ハマナス 35

ハマワスレナグサ 39

ハヤザキアカザ 38

ハヤトウリ 35

ハラン 31

ハリアサガオ 39

ハリエンジュ 34

ハリグワ 35

ハリゲナタネ 37

ハリナスビ 39

ハリヒジキ 38

ハリビユ 38

ハルガヤ 31

バルカンノウルシ 35, 197

ハルザキヤマガラシ 36

ハルビオン 42

ハルビオン無舌状花型 42

ハルシャギク 42

ハルニレ 35

ひ

ヒアシンス 31

ヒイラギナンテン 33

ヒエ 32

ヒエンソウ 33

ヒガタアシ 33, 136

ヒガンバナ 31

ヒゲガヤ 32

ヒゲナガスズメノチャヒキ 32

ヒサウチソウ 41

ヒシモドキ 40

ヒトフサニワゼキショウ 30

ヒナウキクサ 30

ヒナキキョウソウ 41

ヒナゲシ 33

ヒナツメクサ 34

ヒナマツヨイグサ 36

ヒメアオゲイトウ 38

ヒメアメリカアゼナ 40

ヒメアレチハナガサ 40

ヒメイワダレソウ 40, 168

ヒメウコギ 43

ヒメオドリコソウ 40

ヒメオニササガヤ 32

ヒメカジイチゴ 35

ヒメカナリークサヨシ 32

ヒメキンギョソウ 40

ヒメキンセンカ 41

ヒメケイヌホオズキ 39

ヒメコバンソウ 32

ヒメサンシキスミレ 35, 197

ヒメジョオン 42

ヒメシロビユ 38

ヒメスイバ 37

ヒメセンナリホオズキ 39, 197

ヒメダシキギョウ 41

ヒメツルソバ 37

ヒメナズナ 37, 197

ヒメナデシコ 37

ヒメニワゼキショウ 30

ヒメヌカボ 31

ヒメハマアカザ 38, 197

ヒメヒオウギズイセン 30

ヒメヒゲシバ 32, 197

ヒメビジョザクラ 40

ヒメヒマワリ 42

ヒメヒレアザミ	41	フジマメ	34	ボケ	34	
ヒメフウチョウソウ	36	ブタクサ	41	ホコガタアカザ	38	
ヒメフウロ	36	ブタクサモドキ	41	ホザキニワヤナギ	37	
ヒメブタナ	42	ブタナ	42	ホザキノイカリソウ	33	
ヒメマツバボタン	38, 156	フッキソウ	33	ホザキマンテマ	38	
ヒメミクリガヤツリ	31	フトイ	31	ホシアサガオ	39	
ヒメムカシヨモギ	41	ブドウホオズキ	39	ホシマメアサガオ	39	
ヒメムラサキハナナ	37	フトコゴメイ	31	ホソアオゲイトウ	38	
ヒメモロコシ	33	フユアオイ	36	ホソエガラシ	37	
ヒメヤシャブシ	35	フユヌカボ	31	ホソヌカキビ	32	
ヒメヨモギ	41	フヨウ	36	ホソバアレチヌスビトハギ	33	
ヒメリュウキンカ	33	フヨウカタバミ	35	ホソバアレチヌスビトハギ白花型	34	
ヒヤクニチソウ	42	ブライダルベール	31	ホソバウンラン	40	
ヒユ	38	フラサバソウ	40	ホソバオオアマナ	31	
ヒラナス	39	ブラシノキ	36	ホソバツルノゲイトウ	38	
ヒルザキツキミソウ	36	ブラジリアンセージ	41, 197	ホソバツルメヒシバ	32	
ヒレハリソウ	39	フランスギク	42	ホソバノチチコグサモドキ	42	
ヒレミヤガミスゲ	31	へ			ホソバハルシャギク	41
ビロードクサフジ	34	ベニカタバミ	35	ホソバヒイラギナンテン	33	
ビロードホオズキ	39, 197	ベニバナ	41	ホソバヒメミソハギ	36	
ビロードモウズイカ	40	ベニバナセンブリ	39	ホソバフウリンホオズキ	39, 197	
ヒロハウシノケグサ	32	ベニバナツメクサ	34	ホソミキンガヤツリ	31	
ヒロハニコゲヌカキビ	32	ベニバナボロギク	42	ホソムギ	32	
ヒロハノマンテマ	38	ベニバナマメアサガオ	39	ボタンウキクサ	30, 115	
ヒロハノレンソウ	34	ヘラオオバコ	40	ホテイアオイ	31, 124	
ヒロハフウリンホオズキ	39, 197	ヘラバヒメジョオン	42	ホテイチク	33	
ヒロハホウキギク	41	ペラペラヨメナ	42	ホナガアオゲイトウ	38	
ビワ	34	ほ			ホナガイヌビユ	38
ふ		ホウオウチク	32	ホナガカワヂシャ	40	
フウセンカズラ	36	ホウキアザガヤ	32	ホナガキンエノコロ	33	
フウセントウワタ	39	ホウキギク	41	ポポー	30	
フウリンユキアサガオ	39	ホウキヌカキビ	32	ホルトソウ	35	
フェイジョア	36	ボウズヒメジョオン	42	ホルトノキ	192	
フサアカシア	33	ボウホソムギ	32	ホワイトテキサスセージ	41	
フサジュンサイ	30, 113	ボウムギ	32	ポンテデリア パニクラタ	31	
フサフジウツギ	40, 164	ホウライシダ	30	ポンポンアザミ	41, 177	
フシザキノウ	42	ホウライチク	32	ま		
フシネキンエノコロ	33	ホオズキ	39	マキバスマレ	35	
フジバカマ	42			マグワ	35	

マダケ	33	ミチバタナデシコ	38, 197	メタセコイア	30
マツナ	38	ミツガシワ	41	メマツヨイグサ	36
マツバウンラン	40	ミツバオランダフウロ	36	メリケンガヤツリ	31, 127
マツバギク	38	ミツマタ	36	メリケンカルカヤ	31
マツバゼリ	43	ミドリコギシギシ	37, 197	メリケントキンソウ	42, 184
マツバハルシヤギク	42	ミドリハカタカラクサ	31, 123	メリケンムグラ	39
マツバラシ	191	ミドリハッカ	40	も	
マツヨイグサ	36	ミナトアカザ	38	モウコガマ	31
マツヨイセンノウ	38	ミナトカラスムギ	31	モウズイカ	40
マテバシイ	35	ミナトマツヨイグサ	36	モウソウチク	33, 135
マメアサガオ	39	ミナミフランスアオイ	36	モエジマシダ	30
マメガキ	39	ミノボロ	32	モクゲンジ	36
マメカミツレ	42	ミノボロモドキ	33	モクシュンギク	41
マメグンバイナズナ	37	ミヤガラシ	37	モッコク	38
マメザクラ	34	ミヤギノハギ	34	モミジアオイ	36
マメトマト	39	ミヤコアオイ	30	モミジバフウ	33
マルバアサガオ	39	む		モミジルコウ	39
マルバアメリカアサガオ	39	ムギクサ	32	モモ	34
マルバクワモドキ	41	ムギワラギク	42	モモイロツメクサ	34
マルバコマツヨイグサ	36	ムクゲ	36	モリアザミ	41
マルバタラヨウ	41	ムクゲチャヒキ	32	モリシマアカシア	33, 138
マルバツユクサ	31	ムシトリスミレ	40	モンカタバミ	35
マルバトゲチシャ	42	ムシトリナデシコ	38	モンツキウマゴヤシ	34
マルバハッカ	40	ムシトリマンテマ	38	モンツキヒナゲシ	33
マルバフジバカマ	41	ムラサキイノコヅチ	38	や	
マルバルコウ	39	ムラサキウマゴヤシ	34	ヤグルマギク	41
マルバルコウ黄花型	39	ムラサキウマゴヤシ白花型	34	ヤサカフウロ	36
マルバレンリソウ	34	ムラサキオオツユクサ	31	ヤシヤブシ	35
マンテマ	38	ムラサキオランダガラシ	37	ヤセウツボ	41
み		ムラサキカタバミ	35	ヤダケ	33
ミカツキゼニゴケ	30	ムラサキクンシラン	31	ヤナギハナガサ	40
ミジンコウキクサ	30	ムラサキタカオススキ	32, 197	ヤナギバヒメジョオン	42
ミズアオイ	31	ムラサキツメクサ	34	ヤナギバルイラソウ	40
ミズーリマツヨイグサ	36	ムラサキツユクサ	31	ヤネタピラコ	42
ミズバショウ	30	ムラサキナギナタガヤ	33	ヤノネボンテンカ	36
ミズヒナゲシ	30	め		ヤブチョロギ	41
ミズヒマワリ	42, 179	メキシコマンネングサ	33	ヤブヨモギ	41
ミチタネツケバナ	37	メグサハッカ	40	ヤマゴボウ	38
ミチバタガラシ	37				

ヤマハギ	192
ヤマハギ×ニシキハギ	34
ヤマモモソウ	36
ヤリゲイトウ	38
ヤリズイセン	30
ヤワゲフウロ	36
ヤンバルミチヤナギ	37

ゆ

ユウゲショウ	36
ユウゲショウ白花型	36
ユキノシタ	33
ユキヤナギ	35
ユズ	36
ユメノシマガヤツリ	31
ユリズイセン	30
ユリノキ	30

よ

ヨウサイ	39
ヨウシュイブキジャコウソウ	41
ヨウシュイボタ	40

ヨウシュチョウセンアサガオ	39
ヨウシュハッカ	40
ヨウシュヤマゴボウ	38
ヨコハママンネングサ	33
ヨシススキ	32, 129
ヨツバハコベ	38
ヨモギギク	42
ヨモギナ	41

ら

ライムギ	33
ラシャナス	39
ラセイタソウ	35
ラセイタソウ・ニオウヤブマオ中間型	35, 197
ラッキョウ	31
ランタナ	40, 197

り

リギダマツ	30
-------	----

る

ルコウソウ	39
-------	----

ルリニワゼキショウ	30
ルリムスカリ	31
ルリヤナギ	39

れ

レイコウ	38
レンギョウ	39

ろ

ロウバイ	30
ローマカミツレ	41
ロベリアソウ	41

わ

ワイヤープランツ	37
ワサビ	37
ワシントンヤシ	31
ワタ	36
ワタゲツルハナグルマ	41
ワルナスビ	39

外来種の現状を知り、外来種対策に取り組みましょう

外来種の中には、繁殖力が強く、あっという間に広がってしまう種があります。外来種の侵入や定着拡大を防ぐためには、情報収集や防除活動を行う必要がありますが、外来種の分布状況は日々変化するため、今後新たな場所で発見される可能性があります。

外来種対策は、行政だけでは、時間やパワーが不足しています。生物多様性を守るためには、地域・社会の皆さんの力が欠かせません。

外来種の現状を知るとともに、地域・社会の皆さんで外来種対策を行っていきましょう。

・外来種を発見した場合は、情報をお寄せください。

○専用サイト「指標種チェッカー」では、外来種の情報地図上に投稿できます。

また、登録されたデータを見ることができます。

(アドレス <https://survey123.arcgis.com/share/9e5e5cf583744ae6a663217418d89839>)



指標種チェッカー

○愛知県環境局webページ「STOP!あいちの外来種」内にも、「外来種発見報告書」や

「外来種駆除報告書」の様式を掲載していますので、こちらに入力していただき、

愛知県環境局自然環境課に送付いただくこともできます。



STOP! あいちの外来種

・外来種の最新の情報は、愛知県環境局webページ「STOP!あいちの外来種」で随時、情報を発信していきます。



愛知県の外来種
ブルーデータブックあいち2021

発行年月 令和3年3月

編集 愛知県環境調査センター

発行 愛知県環境局環境政策部自然環境課
愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 052-954-6230

本書に掲載した写真は、著作者の了解を得て複製したものです。
私的利用または引用等著作権法上認められた行為を除き、著作者に無断で再複製を行うことはできません。